

目指す学校像	子どもが行きたい学校 保護者が行かせたい学校 教職員がやりがいを感じられる学校 地域が信頼を寄せる学校
--------	-----------------------------------------------------

重点目標	1 デジタルコンテンツの有効活用による個別最適な学びの推進及び基礎学力の向上 2 安心・安全な学校に向けた相談機能の一層の向上を目指した生徒指導・教育相談体制の充実 3 学校運営協議会を中心とした学校・家庭・地域の協働体制による社会に開かれた学校の実現 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる教職員研修の充実
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
年 度		目 標	評 価	評 価	評 価	評 価	実施日令和6年2月15日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
学力向上に関する取組	1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学、理科ともに全国、県平均と比べ概ね良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べG・Sでやや高く、国語、数学、理科、社会でやや低い。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、ICT機器の活用状況に係る質問項目において、すべて全国、県、市の平均を上回る結果である。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」「読むこと」及び数学の「データの活用」が市の平均より低い。 ○市の学習状況調査の結果から、各教科における生徒の関心・意欲がやや低い。授業内容を生徒の生活と関連付けたり、ICTの有効な活用方法を検証したりしながら、生徒の興味・関心を高めることが課題である。	・学びの自律化・探究化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・学ぶ楽しさを実感できる「STEAM S TIME」の実施による探究的な学びの実現	①「学びのポイント」(じしゃく)を活用した授業研究を各学年が随時取り組み、生徒が目標をもって主体的に学ぶ「探究的な学び」を実践する。 ②各教科、ドリルパークやスタディサプリ、デジタル教科書などのデジタル教材を活用し、生徒が目標をもって学習に取り組むようにする。 ③全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、読解力に関する状況を分析するとともに、国語科をはじめとしたすべての教育活動の中で「つなげて読む」「比べて読む」「重ねて読む」活動を充実した授業づくりを推進する。	①学校評価(生徒)において、「授業は楽しくわかりやすいですか。」の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ②学校評価(生徒)において、「学習用端末(PCタブレット)を活用することで、学習に取り組みやすくなったと感じますか。」の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ③市の学習状況調査における生活習慣に関する調査の「学習状況」の中で「書くこと」「読むこと」に関連する項目の肯定的な回答が全学年市の平均を上回ることができたか。	①学校評価(生徒)における「授業は楽しくわかりやすいですか。」の肯定的な回答の割合は95、2%だった。 ②学校評価(生徒)における「学習用端末(PCタブレット)を活用することで、学習に取り組みやすくなったと感じますか。」の肯定的な回答の割合が94、1%だった。 ③全国学力・学習状況調査における「書くこと」「読むこと」に関連する項目について、埼玉県・全国の平均を上回ることができた。また、数学の「データの活用」についても、埼玉県・全国の平均を上回ることができた。	A	○今年度の課題は、学習用端末を活用しながら生徒が学習に取り組みやすい授業を作ることであった。次年度は、「個別最適な学び」の充実することで、生徒の基礎基本の定着や主体的・対話的で深い学びにつなげていく。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、国語の「言葉の特徴や使い方に」に関する事項についての平均正答率が埼玉県・全国の平均を下回った。語句について正しく理解する力や文脈に即して漢字を正しく書く力の定着を図る。
		○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」「読むこと」及び数学の「データの活用」が市の平均より低い。 ○市の学習状況調査の結果から、各教科における生徒の関心・意欲がやや低い。授業内容を生徒の生活と関連付けたり、ICTの有効な活用方法を検証したりしながら、生徒の興味・関心を高めることが課題である。	・STEAM S TIMEの実施による探究的な学びの実現	①「STEAM S TIME」で、プログラミング的思考とPBLを取り入れた探究的な学びを行う単元を創り出し、実施する。 ②教員と生徒が共に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題の解決を目指すプログラムを展開する。	①学校評価(教職員)において、「STEAM S教育を理解し、STEAM S TIMEを実施することができたか」と回答する教員の割合が60%以上となったか。 ②学校評価(教職員)の総合的な学習の時間に関する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①学校評価(教職員)における「STEAM S教育を理解し、STEAM S TIMEを実施することができたか」と回答する教員の割合は83、3%だった。 ②学校評価(教職員)における「総合的な学習の時間」に関する項目の肯定的な回答の割合は95、5%だった。	A	○学校全体として、STEAM S TIMEを計画的に実施することができた。次年度は、教科等横断的な学習や、地域など多様な接点を持ちながら、社会的な課題や現代的な諸課題に対して学ぶことができるよう STEAM S TIMEのさらなる充実を図る。
	2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を上回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる生徒の割合は0件であった。 (課題) ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、専門機関と連携しながら学校の相談機能の一層の向上を目指した教育相談体制の構築が必要である。 ○教職員による施設設備の安全点検を行うだけでなく、GIGAスクール構想に係るタブレット等情報機器の破損状況などを確実に把握することが課題である。	・いじめや不登校の未然防止、早期発見、早期解決に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現に向けた校内体制の充実	①週に1回の生徒指導委員会、教育相談委員会では、情報共有で終わるのではなく、生徒一人ひとりに応じた支援の方法を検討し有効な支援につなげていく。 ②年間6回のアンケートを実施し、生徒の心の状態の把握し、支援が必要な生徒には面談を適宜実施する。	①学校評価(教職員)における生徒指導・教育相談に関する項目の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ②学校評価(生徒)(保護者)において、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①学校評価(教職員)における「学校を訪問すると、生徒から気持ちの良いあいさつをしてくれる。また、まじめな態度で授業を受けている生徒の姿が印象的である。次年度以降も引き続き、生徒に温かな態度で接し生徒が充実した学校生活を送れるよう学校・家庭・地域が連携して支援をしていく。 ○Solaの一むの活用など校内体制を整備し個別最適な学びの充実を図る。	A	○学校評価(保護者)における「学校は家庭への連絡を密に行い適切に情報提供している。」の肯定的な回答が84、3%だった。各主任(ミドルリーダー)が中心となり、適切に家庭への情報提供が行われる体制づくりを行う。 ○Solaの一むの活用など校内体制を整備し個別最適な学びの充実を図る。
		○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、専門機関と連携しながら学校の相談機能の一層の向上を目指した教育相談体制の構築が必要である。 ○教職員による施設設備の安全点検を行うだけでなく、GIGAスクール構想に係るタブレット等情報機器の破損状況などを確実に把握することが課題である。	・安全な生活の実現に向けた校内体制の充実	①月に1回の安全点検で危険箇所を確実に把握し、修繕が必要な箇所については速やかに対応する。 ②GIGAスクール構想に係る情報機器については、電子媒体での管理簿を作成し適切に管理し、破損があった際には速やかに修繕依頼できる仕組みを構築する。	①学校評価(教職員)に係る安全指導、施設・設備に関する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②電子媒体の管理簿は、学期に1回以上点検し管理の徹底ができたか。また、破損した状態のまま使用せず速やかに修繕することができたか。	①学校評価(教職員)における「安全指導」「施設・設備」に関する項目の肯定的な回答の割合は100%だった。 ②電子媒体の管理簿は、学期に1回以上点検し管理の徹底ができた。修理に要する時間が長期化しているため、それぞれの破損について修繕の必要性を判断し、適切に対応することができた。	A	○安全点検に係る業務の効率化を図るため、紙媒体から電子媒体での安全点検に移行していく。 ○備品・ICT機器の適切な管理だけでなく、SSSPが本格的に運用する中で生徒の個人情報など、ハードとソフト両面における適切な管理を行う。
3	(現状) ○昨年度、三橋小・三橋中学校運営協議会を立ち上げ、書面会議での開催もあったが3回の協議会を開催することができた。 ○コロナ禍における行事や学校公開については、規模や開催方法を工夫し保護者に体育祭や合唱コンクールを公開することができた。 (課題) ○学校運営協議会で熟議し決定した「三橋学区で目指す児童生徒像」の実現に向け、学校・家庭・地域で何かできるかを再度熟議し協働へとつなげていくことが課題である。 ○昨年度、本校HPの関係者限定公開の情報ページを開設したが、周知を徹底することができなかった。家庭や地域への周知を徹底し本校の教育活動について発信していく必要がある。	・学校運営協議会を軸とした「熟議」から「協働」への転換による役割の明確化と、地域学校協働活動の推進 ・PTA、地域との連携・協働による、自己肯定感を醸成する教育活動の展開	①三橋学区で目指す児童像や身に付けさせた資質・能力について共有するとともに、学校・地域・保護者の役割と具体的な取組について明確化する。 ②学校運営協議会において、学校・家庭・地域それぞれの取組の成果と課題及び改善策について熟議し、組織的・継続的な連携・協働体制を構築する。	①学校運営協議会の熟議で、学校・地域・保護者の役割と具体的な取組について明確にし協働へとつなげることができたか。 ②学校運営協議会委員アンケートのすべての項目で、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①学校運営協議会の熟議で、学校・地域・保護者の役割と具体的な取組について明確に示し、小中合同あいさつ運動や生徒が参加する避難所運営訓練の実施など協働へとつなげることができた。 ②学校運営協議会委員アンケートのすべての項目で、肯定的な回答の割合は100%だった。	A	○次年度は、保護者や地域の人材を活用し、地域の文化や風習に触れたり学んだりする機会を作ることによって家庭や地域の教育力を向上させる。また、生徒に地域のイベント等に参加する機会を提供することで、生徒が地域における次世代のリーダーとなるような取組を推進する。	
	○昨年度、本校HPの関係者限定公開の情報ページを開設したが、周知を徹底することができなかった。家庭や地域への周知を徹底し本校の教育活動について発信していく必要がある。	・PTA、地域との連携・協働による、自己肯定感を醸成する教育活動の展開	①PTA主催の地域のボランティア活動などを再開し、地域人材や保護者などの多様な人物が、生徒に対して積極的に関わる機会を設定する。 ②5類感染症に対応した学校公開の機会を計画・実施する。また、本校HPの関係者限定公開の情報ページを活用し本校の取組を発信する。	①学校評価(教職員)における「家庭・地域との連携」に係る項目において、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校評価(保護者)における「家庭」「地域」「HP」に係る3項目で、肯定的な回答の割合が85%以上となったか。	①学校評価(教職員)における「家庭・地域との連携」に係る項目において、肯定的な回答の割合は98、9%だった。 ②学校評価(保護者)における「家庭」「地域」「HP」に係る3項目で、肯定的な回答の割合は84、8%だった。	A	○生徒がPTA主催のボランティア活動に参加し、地域が今取り組んでいる活動を知るとともに、地域が抱えている課題を理解し持続可能な地域づくりを促進する。 ○PTAと連携し、令和6年度から新たなアプリを採用し家庭への積極的な情報発信を行う。	
4	(現状) ○教育活動全体を通した人権教育を推進し、市教委委嘱の人権教育研究発表を開催し、教職員及び生徒の高い人権感覚を養うことができた。 ○研究主任のリーダーシップのもと定期的に校内研修委員会を開催し、計画的に研究を進めることができた。 (課題) ○教職員及び生徒の高い人権感覚の水準を維持していくことが課題である。 ○教育D Xを活用した職場環境の構築を推進しながら、教職員の授業力の向上、並びに時間外在校時間を短縮させることが課題である。	・教育活動全体を通した人権教育の推進並びに、授業力向上のための研修の実施 ・誰もが居心地のよい職場環境の構築	①定期的な校内研修会を開催し、学校課題研究を計画的・組織的に推進していく。 ②「よい授業」やデジタルコンテンツを活用した授業など、他校の模範的な取組や先進的な取組状況を教職員に発信・周知するとともに、データを蓄積していく。 ③教育D Xを活用(ICT のさらなる活用の推進)した職場環境を整備するとともに、全職員に毎月の時間外在校時間を意識させ、業務改善を推進していく。	①年6回の校内研修を計画通りに実施することができたか。 ②学校評価(教職員)における校内研修に係る項目において、肯定的な回答が90%以上となったか。また、学校評価(生徒)における「授業は楽しく分かりやすいですか」の項目において、肯定的な回答が95%以上となったか。 ③学校評価(教職員)における働き方改革に係る項目において、肯定的な回答の割合が70%以上となったか。	①年6回の校内研修を計画通りに実施することができた。 ②学校評価(教職員)における「校内研修」に係る項目において、肯定的な回答は94、7%だった。また、学校評価(生徒)における「授業は楽しく分かりやすいですか」の項目において、肯定的な回答は95、2%だった。 ③学校評価(教職員)における「働き方改革」に係る項目において、肯定的な回答の割合は74、2%以上だった。	A	○令和6年度は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実についての研究を推進していく。 ○SSSP、Solaの一むの効果的な活用方法の実現に向け、校内研修の組織にエバンジェリストを追加し、年に6回の校内研修を計画的に実施する。 ○教育D Xを活用した職場環境の整備を引き続き推進し、教職員の授業力を向上させることで、教職員一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地の良い学校作りを行う。	
	○教職員及び生徒の高い人権感覚の水準を維持していくことが課題である。 ○教育D Xを活用した職場環境の構築を推進しながら、教職員の授業力の向上、並びに時間外在校時間を短縮させることが課題である。	・誰もが居心地のよい職場環境の構築	①定期的な校内研修会を開催し、学校課題研究を計画的・組織的に推進していく。 ②「よい授業」やデジタルコンテンツを活用した授業など、他校の模範的な取組や先進的な取組状況を教職員に発信・周知するとともに、データを蓄積していく。 ③教育D Xを活用(ICT のさらなる活用の推進)した職場環境を整備するとともに、全職員に毎月の時間外在校時間を意識させ、業務改善を推進していく。	①年6回の校内研修を計画通りに実施することができたか。 ②学校評価(教職員)における校内研修に係る項目において、肯定的な回答が90%以上となったか。また、学校評価(生徒)における「授業は楽しく分かりやすいですか」の項目において、肯定的な回答が95%以上となったか。 ③学校評価(教職員)における働き方改革に係る項目において、肯定的な回答の割合が70%以上となったか。	①年6回の校内研修を計画通りに実施することができた。 ②学校評価(教職員)における「校内研修」に係る項目において、肯定的な回答は94、7%だった。また、学校評価(生徒)における「授業は楽しく分かりやすいですか」の項目において、肯定的な回答は95、2%だった。 ③学校評価(教職員)における「働き方改革」に係る項目において、肯定的な回答の割合は74、2%以上だった。	A	○令和6年度は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実についての研究を推進していく。 ○SSSP、Solaの一むの効果的な活用方法の実現に向け、校内研修の組織にエバンジェリストを追加し、年に6回の校内研修を計画的に実施する。 ○教育D Xを活用した職場環境の整備を引き続き推進し、教職員の授業力を向上させることで、教職員一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地の良い学校作りを行う。	

学力向上に関する取組

安心・安全に関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教職員の資質向上に関する取組

学校運営協議会による評価
 実施日令和6年2月15日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等
 ○第2回学校運営協議会(11月)で授業参観を行った。ICT機器の活用や話し合い活動など、落ち着いた環境の中で工夫ある教育活動が行えていると実感している。全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果を分析しながら学校としての改善策を示してほしい。次年度も、工夫ある授業を展開していただき、生徒が自ら考え、進んで学び、粘り強く挑戦する生徒の育成に努めてほしい。学校運営協議会で協力できることがあればぜひ協力したい。
 ○学校を訪問すると、生徒から気持ちの良いあいさつをしてくれる。また、まじめな態度で授業を受けている生徒の姿が印象的である。次年度以降も引き続き、生徒に温かな態度で接し生徒が充実した学校生活を送れるよう学校・家庭・地域が連携して支援をしていく。
 ○施設・設備のみならず情報管理の徹底を行い、安心・安全な学校運営を引き続きお願いしたい。
 ○今年度は、三橋中学校区の伝統でもある「あいさつ」をテーマにした熟議を行い、小中合同あいさつ運動を行った。次年度以降も、避難所運営訓練をはじめ、地域との関りを積極的に作り、地域に根差した活動の充実を図っていく。また、生徒が、地域における次世代のリーダーとなるような取組を次年度の学校運営協議会で熟議し協働につなげていく。